

## 兵庫県生物学会設立当時をたどって

平畑 政幸

戦後の混乱が続き世情が十分に定まらない最中の1948年(昭和23年)10月7日~9日、第3回日本生物教育大会が、神戸市立諏訪山小学校講堂を主会場、山手小学校講堂を展示陳列会場として開催されました。

本会の機関誌『兵庫生物』のNo.3(昭和24年3月30日発行)に載る「学会記事」(室井綽編集兼発行者)の記録と、この会に関わってこられた方々の談話を添え、当時の様子を垣間見て、今回2010年8月3~6日の日本生物教育会第65回全国大会兵庫大会とのつながりをしたためます。

室井綽氏からは、当時のリーダー森為三会長、紅谷進二理事長の見事な采配と全体の企画、膨大な資料集めなど重いご苦勞があったことが伺えます。

当津隆氏からは、岡村はた氏、杉田隆三氏ほか十数人と共に山手小学校の展示会場で室井氏、故渋谷久雄氏の指示で手書きの図や説明のチャートなどの書き直し、その貼り付け、会場整理や掃除など補助の雑用に走りまわられたこととお聞きしました。軍隊から帰って昭和22年に教師になったばかりの出来事でした。

岡村はた氏からは、学徒動員で駆り出されていた昭和20年の明石空襲で被爆した川崎航空機明石工場の生々しい被爆跡地に出来た大きな池(弾生池)を県立第四高女の生徒と一緒にクラブ活動で調査したこと、淡水海綿の標本を並べ、イタチムシをはじめ淡水のプランクトンを採集観察して図を描いたり、池での遷移を解説図にしたり、チャートの展示ではPTAの母親達も一緒に活動したと生々しいお話を聞くことが出来ました。

杉田隆三氏からは、教師成り立ての時に、とにかく諏訪山小学校へ行け言われて作品をもっていった。模造紙に書いて展示した。残っているかと思ったが何度も転居したので原稿しか残っていない。

また前田米太郎氏からは、前年の昭和22年、昭和天皇御来神のみぎり天覧に供せられた古川博二氏の貝類化石や前田氏が採集した神戸市白川産のシュロ化石ほか20×60cmの標本箱に収められた標本を第三回日本生物教育大会にも展示したことで、森為三会長から「感謝状」(A5版)をいただいたこと、その時の黒っぽく黄金色に変色した「天覧を賜ふ 神戸市白川産化石標本」という紙製の看板(12×35cm)は標本と共に大切に保管されていました。前田氏の資料は、愛徳学園高校に保管されています。宇那木隆氏のご協力を得てまとめました。8月4日には、日本生物教育会

第65回全国大会兵庫大会で愛徳学園の許可を得て化石を再度展示します。

ここに、前田米太郎氏(資料1)と杉田隆三氏(資料2)が所持される資料を誌上公開し、昭和23年当時を偲びたいと思います。

その他、第3回大会の資料を集めるため当時をご存知と思われる、広島市在住の稲葉明彦氏、赤穂の原弘平氏、ほかの方々に電話や知人を頼りお尋ねしたが還暦を過ぎるタイムカプセルを掘り起こすことはできなかったことを思い、前田米太郎先生をはじめ岡村氏・当津氏・杉田氏に感謝し畏敬の念を強くしました。

なお、機関紙『兵庫生物』No.3の「学会記事」の内容をここに抜粋します。

10月7日(大会第1日)

- 講演 1. 理科教育について 兵庫県軍政部民間教育課長 一フィリップ氏  
2. 生物教育のあり方 文部省図書監修官 永田義夫氏  
3. 電子顕微鏡の生物的応用 阪大教授 理学博士 安澄権八郎氏
- 協議題 1. 大学入試問題に対する要求の件 広島高師附属高校 橋岡信一  
2. 新しい生物教育は如何にあるべきか 東京本部  
3. 新制高校における理科教育のユニットは如何なる点に論據を求め作製せらるべきか 京都、鴨沂高校 松本ヨネ  
ほか6題

10月8日(大会第2日)

1. 「イモほり」の实地授業  
2. 人間への生物心理学的解釈、特に人間の条件反射研究について 関西学院大学教授 理学博士 古武瀨正氏

研究発表

1. 六甲山蟻相について 兵庫、甲陽高校 東 正雄  
2. 但馬沿岸の魚について 兵庫、豊岡高校(1年) 板橋敬吉  
3. 明石産旧象化石について 兵庫、福崎高校 倉橋一三

4. 丹波地方の植物化石  
京都, 鴨沂高校 松本ヨネ
  5. タナゴとカラスガイの共棲について  
京都, 亀岡高校 高木虎雄
- ほか14題

15:30から本県会員を中心として懇談会

10月9日 (大会第3日目)

見学会

1. 六甲高山植物園から有馬温泉
2. 阪大の電子顕微鏡
3. 武田製薬のペニシリン製造
4. 灘の生一本醸造

それぞれ会員が案内し、すべて好評で満足していただくことができたことと記載されています。

兵庫県生物学会発足間もない時期の全国的な大きな行事であり、会員総動員で会の運営に当り、大成功で成果をあげることができたが、それぞれの分野の担当者の負担は重く、膨大な労力であったことが語り継がれています。62年の歳月を経ての今回の全国大会の準備と、その運営の労に心から感謝します。

また、設立前の先輩方の熱気溢れる思いを示す文書(資料3)、機関誌『兵庫生物』発行の際の覚え書き(資料4)と、生物学会と生物部会が共同運営を解消するまでのメモ(資料5)を、後藤統一氏が当津隆氏からお預かりしていました。1989年より後は、編集部で加筆しました。

平成22年4月25日記す